

「まちなか」CCRC（花輪）

- ①買い物や通院の利便性といった都市機能を楽しむことができる
→「まちなか」への居住推進
- ②空き家や空き店舗の活用が可能
→移住しやすい環境づくり、景観の改善
- ③地域包括支援センター、福祉施設などが徒歩圏内
→高齢者が安心して住むことができる
- ④文化の杜交流館コモッセや福祉プラザ、高齢者サロンが徒歩圏内
→芸術・文化、生涯学習の場、いきがいづくり

自家用車を持たない高齢者にとっても
暮らしやすいCCRC

「保養地型」CCRC（大湯）

- ①温泉や滝などの地域資源が活用できる
→共同浴場等の温泉、滝めぐりなどの保養コンテンツ
- ②新たな拠点施設の整備
→生涯学習や健康づくり、多世代交流の創出
- ③エリア内に病院や介護施設が集中
→安心感の醸成、温泉を活用した介護予防やリハビリ
- ④空き家や空き店舗の活用が可能
→移住しやすい環境づくり、景観の改善

鹿角らしい「癒し」を楽しむ
CCRC



「かづの版CCRC」の推進にあたっては、この2地域をモデル地域として検討しましたが、①少人数増えなくても効果は薄いこと、②第三次医療機関までの距離、③介護サービスや人材の確保など、さまざまな課題が想定されました。これらの課題は既に解決に向けた取り組みを進めているものもあることから、CCRCを一つのコンセプトとして、移住・定住促進事業の対象を60代まで拡大するなど、事業間の連携・拡充を図りながら、課題の解決に向けた取り組みをさらに進めることが重要です。また、このような新しい視点を加えて中心市街地の活性化や魅力発信等の取り組みを展開することで、高齢者のみならず若い世代にも「安心して暮らせるまち」という前向きなイメージの醸成にもつながり、地域全体が活性化することが期待できます。

3. 課題と方向性の考察

- #### 2. 地区別CCRCの提案
- (1) 「まちなか」CCRC（花輪）
花輪の中心市街地は、買い物や通院等の利便性が高く、文化の杜交流館コモッセや福祉プラザといった生涯学習や健康づくりを行うコミュニティスペースが徒歩圏内にあるなど、都市機能を楽しむことができるエリアです。このため、自家用車を持たない高齢者にとっても暮らしやすい環境であり、移住に適した地区であるといえます。
- (2) 「保養地型」CCRC（大湯）
温泉や滝など、鹿角の「癒し」という地域資源を活用できるエリアです。また、新たな拠点施設が整備されることで新しい人の流れが期待され、多世代交流や高齢者の活躍



の場の創出といった可能性を秘めています。さらに、病院や介護施設、地域包括支援センターといった施設が集中しています。買い物等の交通利便性の確保が課題として挙げられますが、さまざまな機能がそろっており、移住に適した地区であるといえます。

かづの版CCRCの可能性について

～元気な中高年齢者の移住で地域を活性化～

政策企画課 総合戦略室 ☎30-0201

研究背景

人口減少と少子高齢化という問題に直面している地方においては、各地域の特徴を活かした地方創生が求められています。

国では、東京圏への一極集中の緩和のため、地方創生の一環として「生涯活躍のまち構想」（日本版CCRC）を掲げ、元気な50代以上の中高年齢者の地方移住を推進しています。

このことから、本市ができる「かづの版CCRC」の方法とその課題、今後の方向性について調査、研究を行いました。



※「生涯活躍のまち構想」（日本版CCRC）とは…

東京圏の高齢者が地方や近隣の市街地に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら、健康で活発な生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指すものです。

1. かづの版CCRCのねらい

本市は2020年頃から65～74歳の人口が減少に転じ、2025年頃からは75歳以上の人口も減少に転じると予測されています。

このため、2020年以降、地域活動を支えていた元気な高齢者が減少することで、地域コミュニティの維持が難しくなることや、長年かけて整備されてきた医療・介護施設に空きが生じることが懸念されます。

一方、東京圏では、今後も高齢者が増加する見込みで、医療・介護サービスの需要を補うため、さらに人口流入が進む可能性があります。

また、内閣官房の調査によると、東京圏では定年退職した方々の地方でのセカンドライフの希望が高まっています。

本市では、既存のまちなみや資源を活用することで地域全体をCCRCの拠点機能とし、移住高齢者が地域に溶け込んで暮らす方法が最適と考えます。そのモデルとして、医療・介護等の生活機能が集約している2つの地区で可能なポイントを整理しました。

かづの版CCRCのねらい

東京圏

地方への移住を促進

- ①高齢者人口が今後も増加する推計
- ②高齢者のセカンドライフの多様化
- ③高齢者の増加に伴う医療・介護サービス不足の懸念
- ④地方への移住希望者の増加、U・Iターンの活発化

鹿角市

人口増加、産業の活性化を目指す

- ①2020年頃をピークに高齢者数の減少
- ②人口減少、高齢化による地域コミュニティの弱体化および産業の衰退
- ③長年かけて整備してきた医療・介護サービスや雇用の余剰の懸念
- ④若い世代を中心とした移住者の増加

本市をPRし、呼び込めないか